（別紙4-1）

NPO法人　福祉サービス評価機構Kネット

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0170501795		
法人名	三愛商事株式会社		
事業所名	グループホーム　里の家平岸　しらかば		
所在地	札幌市豊平区平岸5条12丁目1番26号		
自己評価作成日	令和3年5月1日	評価結果市町村受理日	令和3年7月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170501795-00&ServiceCd=320

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じあえる希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるように配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事や地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、利用者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆっくりと関わりをもち、落ち着いた環境の中でコミュニケーションを図っております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4　高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和3年6月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りで参加職員は理念を唱和していたが、現在は申し送りを自粛しており行えていない。しかし、各職員は理念を頭に置きながら日々の実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響により、地域の行事や町内会活動への参加等中止及び自粛しており、地域の方と交流の場を図ることが出来ない状況である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの影響により、地域の方との交流を控えている為、認知症の理解や支援方法等伝える機会が持てておらず、地域貢献は出来ていない状況である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は外部からの参加は控えていただいており、職員のみで会議を行っている。また、全職員が参加することは難しい為、議事録を配布し全職員が目を通し、内容確認及び周知できるようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	オムツサービスの利用や生活保護関係、介護保険の更新、コロナウイルス関係等によりそれぞれの市・区役所の担当者と主に電話やメールでやり取りし、協力関係を築くよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月ごとに身体拘束廃止適正化委員会を開催しており、身体拘束の禁止項目の中から1項目づつ取り上げ、現状の対応と照らし合わせながら職員間で対応の見直しや再確認等話し合う機会を作っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修の中でもテーマとして取り上げられており、少なからず学んだり、再確認をする機会がある。各職員は理解したうえで介助、支援を行なっている。また、職員のストレス軽減にも目を向け取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状ではそれらの制度を利用している方はいない為、聞いたことはあっても内容の把握や理解までには至っていない。制度を利用している方がいれば、今よりも理解に繋がったり、学ぶ機会が欲しいと思う職員も増えるのではないかと思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が対応している。契約書・重要事項説明を確認してもらいながら説明を行い、一つひとつ理解が得られていることを確認しながら進めている。家族より疑問や不安な事等質問があった際も説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルスの影響により現在は面会を制限している為家族と直接会って会話をする機会は減っている。しかし、定期的に電話連絡を行い、家族の要望や気になっている事などを聞き取るよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の会話や会議の中等で現状の理解を深めたり、職員からの要望や提案を伝えられる環境になっている。代表者や管理者は可能な限り反映させられるよう考え、対応してくれている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務日数や休日、有休希望等相談が出来たり、可能な限り希望に沿える努めてくれている。また、業務や利用者の対応により多少前後することもあるが概ね休憩は取れている。職員間の関係も良好であり働きやすい環境である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修を行っており、看取りや認知症の対応について等様々な内容で学ぶ機会がある。コロナウイルスの影響により、外部研修に参加することは難しい状況にあるが、今後リモートでの研修も増やし学ぶ機会を作っていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や外部研修等で他事業所の方と交流の機会を持つことができていたが、コロナウイルスの影響により現在は相互の訪問を控えていることもあり、同業者との交流は難しい状況にある。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決まった時点で本人との面談を行い、不安や困り事、要望等を大まかに聞き取りをしているが、納得・理解した上で入居される方は少ない為、最初は安心して生活できるよう本人との関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めは家族にとっても不安や疑問等あり、それらを解消できるようこまめに連絡を取りながら信頼関係を築くよう努めている。今後も気軽に希望を伝えたり、相談してもられるような環境や関係作りに努めていきたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応として、まずは新しい環境になれることを第一に考え取り組んでいる。また、同時に本人や家族との面談において聞き取りした中から必要な支援をあげ、ケアプランを制作し支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の関わりの中で、利用者と職員が自然な形で教わる、助ける、喜ぶ、褒め合うなどの感情を共有することができており、程よい関係性を築くことができていると思われる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの影響により家族の面会は控えているが、定期的に電話連絡し、近況報告を行うと共に家族の近況も伺っている。昨年よりタブレットを使用したリモート面会も行っており、直接会えなくても本人と家族が顔を合わせられる機会が持てている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響により家族や馴染みの方の面会は行えていない。車から降りない形でのドライブを行った際に市内の馴染みの場所や思い出の地を回り、記憶が甦る様に支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でお互いに声を掛け合ったり、手を貸す等助け合う場面は見受けられている。利用者間でトラブルに発展してしまう場合や干渉を嫌う利用者がいたりするが、適度に職員が介入することで程よい関係性を保つことができていると思われる。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も少しの間は入居中に撮っていた写真を渡したり、書類関係等で家族と連絡を取り合うことはある。また、いつでも来設して頂いたり、電話連絡など対応できる体制にはなっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中で、食べたい物や行きたい所等伝えて下さる方もおり、食事の際に提供したり、外出行事で行ってみるなど職員間で情報を共有し、可能な限り希望に沿えるように支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に大まかに今までの生活歴や様子等聞き取りはしているが、入居後も継続して把握に努めており、少しでも日々の生活に取り入れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活ペースがあり、過度な干渉や介入は行わないよう気をつけながらその方の希望や状況に合わせて柔軟に支援をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望はもちろん、本人の生活状況及び各職員による評価や意見等をもとにその方の現状に適したケアプランを作成し支援を行っている。中々希望を引き出せていない状況もある為、継続して取り組んでいく。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段の様子はもちろん、特に普段とは違う言動や様子がある時は介護記録や申し送りノートなどに記載している。職員間で情報共有を行ったり、ケアプランの見直しの際に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前は利用者の希望により訪問での整骨院を利用していた方が数名いたが、コロナウイルスの影響により利用することができなくなった。その他、現在は市のオムツサービスを利用している方はいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の職業体験やボランティアの受け入れ、町内会の行事に参加するなどしていたが、コロナウイルスの影響により現在は積極的に地域資源を活用することが難しい状況となっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月２回主治医による訪問診療を受けている。コロナウイルスの影響により、現在は事務所で主治医と職員が書面と口頭で近況を報告する形をとっているが、ホームで出来る適切な医療を受けることができている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護が入っている。何かあれば気軽に看護師に相談することができる関係性が築けており、適切なアドバイスを得ることができている。職員の報告や連携ファイルの活用により訪問看護と訪問診療とで情報を共有し適切な支援が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要となった場合、主治医との関係が築けている病院を紹介してくれるケースが多く、入院の調整や情報交換等比較的スムーズに行えていると思われる。退院に向けても管理者と病院側の相談員とで連絡を取り合い早期の退院に繋げている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人や家族に意向は伺っているがはっきりとした返答は得られず、重度化してきた場合や主治医より終末期に向けた話が出てから考え始める家族も少なくない。定期的に確認する機会は必要と思われる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応用に緊急時対応ファイルを作成しているが、実際に職員が適切に対応できるか不安はある。出来る限り、事前対応に重点を置き対応に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主避難訓練は定期的に行っている。コロナウイルスの影響により現在は全体での避難訓練は行えておらず各ユニットにおいて消防署より取り寄せたリーフレットを活用しながら流れや避難場所等の確認を行っている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で利用者の情報交換を行う際は声のトーンや内容等利用者に配慮しながら行うようにしている。特に排泄や入浴、更衣時は羞恥心に配慮しながら支援をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各利用者に合わせて分かりやすい選択肢を設けたり、声掛けを工夫したりすることで少しでも本人が思いや希望を伝えたり、自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を傾聴し、職員間で情報共有した上で可能な限り希望に沿えるよう対応を行っている。希望を伝えられる方ばかりに偏ることがないよう平等な対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は本人の希望や職員と一緒に洋服を選んで頂いている。また、女性の方が多い為ユニット内の行事の中で化粧やネイル、顔パック等行い利用者から好評を得ている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナウイルスの影響により現在は外食が出来ず、またホットプレートを使用して皆で食事を楽しむことも控えている。その分、食事の中で利用者の好みの物や季節の食材を取り入れ食事を楽しめるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	服薬により摂取出来ない果物はあるが、塩分やカロリー制限がある利用者はいない。個別に食事・水分の摂取量や食事形態、嚥下状態が異なる為、刻みやトロミを付けるなど工夫しながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身で行えていてもやはり磨き残しがあり、毎回職員の確認や仕上げの介助を必要とする方はいる。全介助の利用者も含め、個々に合わせた口腔ケア用品を使用し口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、その方の排泄パターンの把握に努めている。早めの声掛けや誘導によりトイレでの排泄に繋がり、排泄の失敗を減らせるよう日々取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を使用している方は殆どである為、出来る限り自然排便に繋がるよう取り組んでいる。食物繊維の摂取だけでなく、1日の水分量を増やしたり、起床時に牛乳を提供、軽い運動を勧めるなど便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めておらず、利用者の希望や体調等に合わせて入浴して頂けるよう支援している。また、入浴に限らず、失禁があった場合には清拭やシャワー浴を行い、状況に応じて臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に合わせて日中は活動を支援することで夜の安眠に繋げる事が出来ている。午後からは体調や足の浮腫軽減を考慮し、自室で1時間程の静養を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はバイタル表に綴り、全職員が薬の効果、副作用について目を通し、把握出来る状態になっている。又、薬に変更があれば申し送りノートに記載し、全職員が確認及び周知するように取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活習慣や本人のやりがい、役割等、個人に合わせた家事活動に参加して頂いている。それぞれ楽しみや気分転換となるよう支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響により、家族や地域住民との交流は控えていただいている。出来る限りの外出の支援として車から降りない形でのドライブを実施している。車から降りられなくても外出した気分になっている様子があり、利用者は喜ばれている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身でお金を管理している方はいない。また、コロナウイルスの影響により、利用者が出かけて買物をすることは控えていただいている為支援ができていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナウイルスの影響により家族の面会を制限している為、家族から電話が来ることがある。また、特定の利用者にはなるがタブレットを使用したリモート面会を取り入れている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者にも手伝いをして頂きながら掃除を行い、環境整備に取り組んでいる。又、職員も声掛けの際は声のトーンに気を付け、ゆっくりと話しかけている。行事の中でデコパージュを行い、利用者皆さんで制作に取り組まれており、出来上がったものは壁に掲示し皆さんで楽しまれている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのTV前にソファーを配置し、利用者同士で活動を行ったり、会話を楽しむ、くつろぐなどして過ごされている。また、午後からは静養を促していることもあり一人で過ごす時間も持てている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には使い慣れた家具や小物等持ってきていただくようお願いはしている。利用者の中には自身で家具の配置を行ったり、壁には家族との写真や動物のカレンダー、演歌歌手のポスター等掲示し、自分の部屋と認識することができ、居心地良く過ごされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室前に利用者の表札を掲示し、自分の部屋である事が分かるよう配慮している。危ないからと物品をすぐに撤去するのではなく、職員間で情報交換をしながら工夫に努め、環境整備を行っている。		